

第11回 企業と生物多様性セミナー

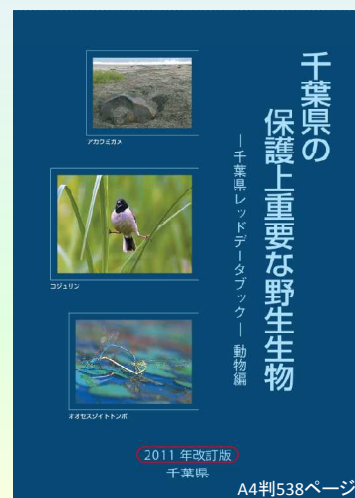
千葉県レッドデータブックについて

2013年9月12日

千葉県生物多様性センター 萩野康則

千葉県レッドデータブック

ご覧になったこと、ありますか？



レッドデータブックとは？

絶滅のおそれのある野生生物に関する情報をまとめた本

- ・ある地域（地球、国、都道府県、市町村など）に生息する生物の生息状況を調査



- ・絶滅のおそれのある生物種や生物群集を選定



- ・絶滅の危険性の高さによりカテゴリー分けし、種の解説や写真、分布状況、保護対策などを整理して、冊子体で公表

レッドデータブックとは？

法的拘束力は無い、が...

- ・地域における絶滅のおそれのある種の現状の理解が深められる
- ・住民に日々の自然との接し方・関わり方について考えを深めてもらう
- ・開発行為等の計画を進める上で、自然との関わり方の検討の際に利用される

生物多様性保全のための基礎資料

最初のレッドデータブック

・世界最初のRDB

IUCN Red List of Threatened Species

1966年 国際自然保護連合 (IUCN)

・日本最初のRDB

我が国における保護上重要な植物種の現状

1989年 日本自然保護協会・世界自然保護基金日本委員会/発行

・環境省(庁)最初のRDB

日本の絶滅のおそれのある野生生物－脊椎動物編

1991年 環境庁/編・日本野生生物研究センター/発行

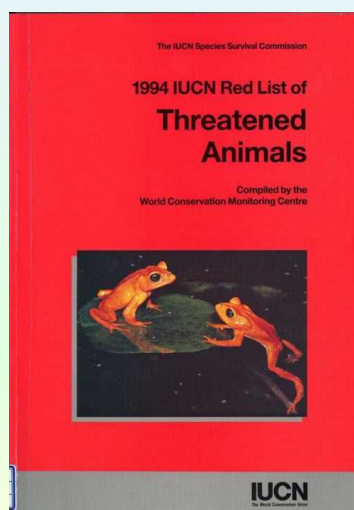
・千葉県最初のRDB

千葉県の保護上重要な野生生物

－千葉県レッドデータブック－植物編

1999年 千葉県環境生活部自然保護課/発行

最初のレッドデータブック



IUCN版 動物編 (1994年改訂版)



環境庁版 無脊椎動物編 (1991年)

国内の発行元別レッドデータブック

官公庁

- ・環境省 環境省(庁)版レッドデータブック(1991年～)
- ・水産庁 「日本の希少な野生水生生物に関するデータブック」(2000年)

地方公共団体

- ・都道府県 47都道府県全てで発行・多くは改訂もなされている
- ・市町村 千葉市、名古屋市、松山市などで発行

その他団体

- ・NGO NACS-J・WWF-J「我が国における保護上重要な植物種の現状」(1989年)
- ・学協会 日本哺乳類学会「レッドデータ 日本の哺乳類」(文一総合出版、1997年)

レッドデータブックとレッドリスト

生物の生息状況を調査し、絶滅のおそれのある生物種や生物群集を選定の上、絶滅の危険性の高さによりカテゴリー分けする



シンプルなりスト形式で公表するもの

レッドリスト(RL)

- ・本来的にはRLがまず発行され、少し遅れてRDBが出る
- ・RDB改訂の合間にRLを出すことも多い



種の解説や写真、分布状況、保護対策などを整理して記述し、冊子体で公表するもの

レッドデータブック(RDB)

- ・RL、RDBとも数年～10年程度で改訂されることが多い

千葉県RDB・RL作成方法

- ・専門家による検討委員会を設置
 - ・RDB/RLで扱う分類群と対象範囲
 - ・レッドデータ種選定の基準と選定方法
 - ・選定にあたっての情報収集と整理
 - ・レッドデータブックの記載内容 などを検討
- ・各委員が対象生物群について評価
 - ・文献、収蔵標本などの基礎的な情報収集から開始
 - ・必要に応じて現地調査も実施
 - ・とりまとめられた情報から、絶滅の危機に瀕している種を抽出
 - ・選定基準は分類群によって異なりうる
- ・各委員がRL作成・RDB原稿執筆
- ・RL・RDB印刷発行・ウェブで公表

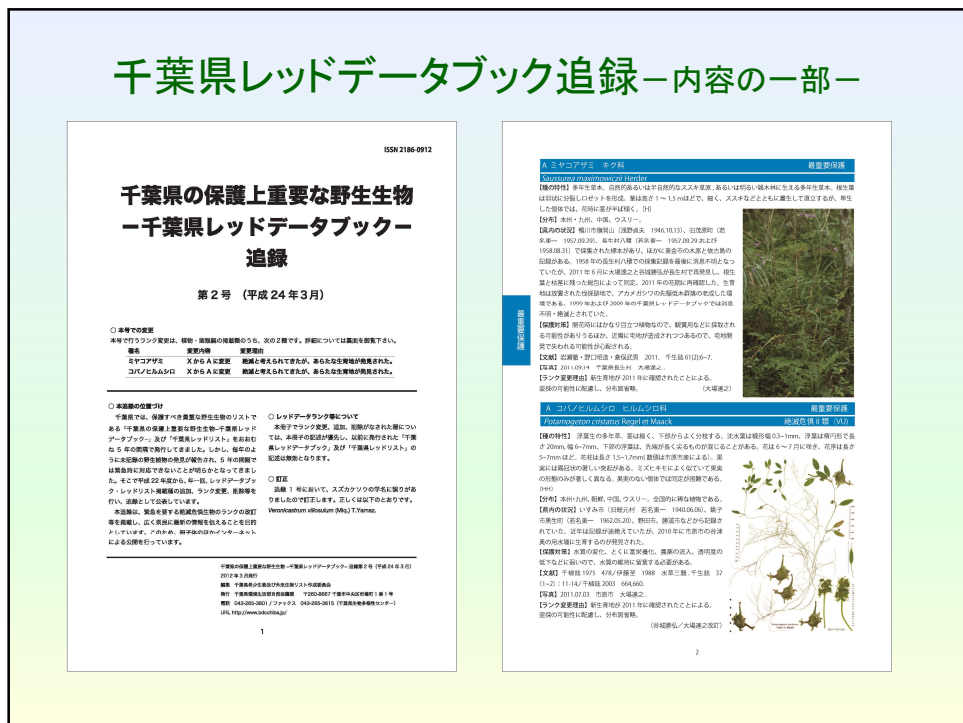
千葉県RDB・RL発行履歴

- 1999年 千葉県の保護上重要な野生生物-千葉県レッドデータブック-植物編
- 2000年 千葉県の保護上重要な野生生物-千葉県レッドデータブック-動物編
- 2001年 千葉県の保護上重要な野生生物 千葉県レッドデータブック-普及版-
- 2003年 千葉県の保護上重要な野生生物 千葉県レッドリスト(植物編)＜維管束植物 改訂版＞
- 2004年 千葉県の保護上重要な野生生物 千葉県レッドリスト(植物編)＜2004年改訂版＞
- 2006年 千葉県の保護上重要な野生生物 千葉県レッドリスト(動物編)＜2006年改訂版＞
- 2009年 千葉県の保護上重要な野生生物-千葉県レッドデータブック-植物・菌類編 2009年改訂版
- 2011年 千葉県の保護上重要な野生生物-千葉県レッドデータブック-動物編 2011年改訂版
- 2011年 千葉県の保護上重要な野生生物-千葉県レッドデータブック-追録 第1号
- 2012年 千葉県の保護上重要な野生生物-千葉県レッドデータブック-追録 第2号

千葉県レッドリストー内容の一部ー



千葉県レッドデータブック追録－内容の一部－



レッドデータカテゴリー

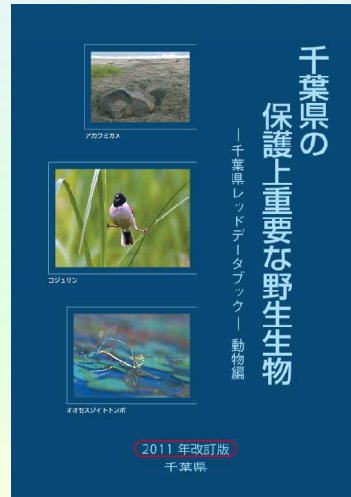
- ・絶滅の危険性の高さによりカテゴリー分けをする
- ・IUCN版RLが基本だが、環境省、地方公共団体でやや異なる

IUCN (2003)	環境省RL(2007)	千葉県RDB(2009, 2011)
Extinct (EX)	絶滅 (EX)	消息不明・絶滅生物 (X)
Extinct in the Wild (EW)	野生絶滅 (EW)	野生絶滅生物 (EW)
Critically Endangered (CR)	絶滅危惧 I A類 (CR)	最重要保護生物 (A)
Endangered (EN)	絶滅危惧 I B類 (EN)	重要保護生物 (B)
Vulnerable (VU)	絶滅危惧 II 類 (VU)	要保護生物 (C)
Near Threatened (NT)	準絶滅危惧 (NT)	一般保護生物 (D)
Data Deficient (DD)	情報不足 (DD)	—
—	絶滅のおそれのある 地域個体群 (LP)	—
—	—	保護参考雑種 (RH)

千葉県の共通カテゴリー

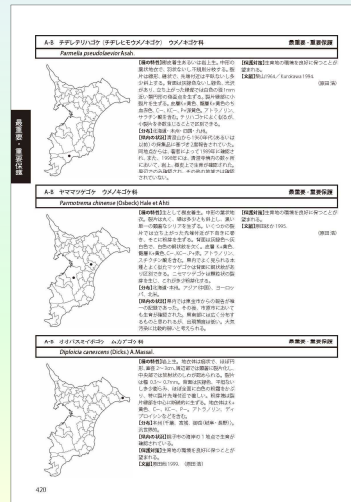
- X 消息不明・絶滅生物** 例: ムジナモ カワウソ
およそ50年間確実な生存情報がなく、千葉県から絶滅した可能性の強い生物。
- EW 野生絶滅生物** 例: ヒロハノエビモ (動物は該当なし)
野生・自生では見られなくなったが、飼育・栽培などによって維持されているもの。
- A 最重要保護生物** 例: ゴヨウマツ ニホンイシガメ
個体数が極少、生息・生育環境が極限、生息・生育地のほとんどが環境改変の危機にあり、放置すれば近々千葉県から絶滅するおそれがあるもの。
- B 重要保護生物** 例: カタクリ オシドリ
放置すれば近く「A」への移行が必至と考えられるもの。
- C 要保護生物** 例: イチリンソウ モリアオガエル
放置すれば「B」に移行することが予測されるもの。
- D 一般保護生物** 例: アカシデ ギンブナ
放置すれば「C」に移行することが予測されるもの。
- RH 保護参考雑種** 例: インバモ キョズミメンダ (維管束植物のみ)
自然界において形成されることが稀な雑種。

千葉県レッドデータブック



千葉県レッドデータブック

内容の一部（植物・菌類編2009年改訂版）



千葉県レッドデータブック

内容の一部（動物編2011年改訂版）

[illegible]

記載の一例（植物・菌類編2009年改訂版）

A オキナグサ キンボウゲ科	←名和と科名	千葉県のランク→	最重要保護
<i>Pulsatilla cernua</i> (Thunb.) Sprenger	←学名	環境省のランク→	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

【種の特性】多年生草本。葉は複3出複葉で互生。虫媒で風散布。乾き気味のシバ草地、砂礫の多い河原などに生える。ススキ群綱。[G]

【分布】本州・四国・九州。済州島。

【県内の状況】かつて放牧牧場の多い時代には広く見られ珍しいものではなかったが、半自然草地の管理が疎かになってから急速に減少し、現在確認できる産地は伊西市など極めて限られている。目立つ草なので記録・採集されることが多く、標本も多く残っている。

【保護対策】人為的な刈り取りにより管理された半自然の草地を保全することが望ましい。

【文献】新千種誌 1975：423／引|田園子 2000

オキナグサの自生地とその受難。千種資料 16：123。／小野靖郎 2006 オキナグサとの出会い 千種資料 16：124／千種誌 2003：188,196。

【写真】伊西市 大場達之。

(大場達之／谷城勝弘 追補)

写真は別ページに載っている場合や、載っていない場合もある

←分布地図
(保護上の観点から表示しない場合もある)

15メッシュ
最新記録 2006年

記載の一例（植物・菌類編2009年改訂版）

X オオミズゴケ（ミズゴケ）	セン綱ミズゴケ科	←和名と科名	千葉県のランク→	消息不明・絶滅
<i>Sphagnum palustre</i> L.	←学名	環境省のランク→	準絶滅危惧 (NT)	
	【種の特性】 低地から高地の湿原や森林において、湿った地面に白緑色の大きな群落をつくる直立性のセン綱。茎葉体はミズゴケ属の中では大型で長さ10 cm以上に達し、幅は葉や枝を含めて2〜3 cm。枝は側方や下方に出る。葉細胞には透明細胞と葉緑細胞の2種類がある。茎の表皮細胞に明瞭なせん状の肥厚があることや、枝葉の透明細胞と葉緑細胞との間の細胞壁が平滑であること、葉緑細胞が横断面で三角形をなし葉の腹側より広がっている。雌雄異株。本種は日本のミズゴケ属としては、最も身近に生育する種として知られ、園芸的に広く利用されてきた。しかし、近年は、全国的に絶滅が危惧されている。 【分布】 北海道・本州・四国・九州。汎世界。 【県内の状況】 1911年に報告されて以来、九十九里平野の湿原や安房丘陵の湿地に産することが確認されていた（浅野 1975）。これらは関東平野では数少ない産地であった。しかし、その後九十九里平野では開発や園芸用の乱獲により消失し、安房丘陵の産地は開発により失われた。近年の詳細な調査によっても生育が確認できず、最後に確認された1973年から50年は経過していないが、県内では絶滅した可能性が高い。 【保護対策】 かつて生育していた湿原や湿地の環境を再現すれば、復元される可能性がある。 【文献】 相馬 1911 / 新植物誌1975: 499 / Suzuki 1956 / 県史千葉県自然誌4 1998: 742. 【写真】 1973. 鴨川市 千葉県立中央博物館所蔵標本。 （古木達郎）			

↑分布地図
（保護上の観点から表示しない場合もある）

この場合、写真は別ページに載っている

X オオミズゴケ 1973年鴨川市採集
千葉県立中央博物館所蔵標本 352ページ

記載の一例（動物編2011年改訂版）

B メダカ メダカ科	←和名と科名	環境省のランク→	国：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
<i>Oryzias latipes</i> (Temminck and Schlegel, 1846)	←学名	千葉県のランク→	千：B-B-B 2000-2006-2011の順
【種の特性】 全長3-4 cm。頭部は縮扁し、両眼間隔は平坦である。口は小さい。側線はない。鰓蓋が大きい。雄の鰓蓋が交尾器になっていない。これらで近縁種と区別できる。生息地は、平地の池沼、水田、用水、河川下流域の流れのゆるいところである。谷津の細流につながる水田や溜まりでもよく見られる。昼行性で、昼間は水面近くを群泳する。塩分にも強い。餌は動物性のプランクトンなどである。産卵期は春から初秋までで、雌は卵を水草に産み付ける。人工品種であるヒメダカ類が観賞用などで販売されている。 【分布】 北海道を除く日本各地。朝鮮、台湾、中国の中・南部。遺伝子による日本での地域集団の解析により、南方及び北方個体群の2つに分けられている。その一つの南方個体群には5つの亜個体群がある。千葉県は、南方個体群の中の東部亜個体群に属する。 【県内の状況】 県内各地にかなりの生息地があるが、埋め立て、分断、水田の乾田化などによる環境悪化等で、生息状況は急激に悪化しつつある。また、地域により、外見にかなりの違いがあるものがあり、調査が必要である。また、人が地域外の個体や人工繁殖個体を放流する事例も多いと推測され、現在生息が確認される場所でも、遺伝子検査等による本来の生息群であるかどうかの慎重な確認が必要である。 【保護対策】 稲作における大型機械化や農業・化学肥料の大量使用のための乾田化とその他の水路・水循環系の人工化などの抜本的見直し、地域の自然がそこに住む人自身の手で維持管理される地域社会の実現、地下水資源の回復による豊富な湧水の復活などを通して、水循環系の回復を核にした自然の再生が何よりも重要である。放流に対する社会的議論が必要である。 【引用文献】 佐原 (1989) 【写真】 2006年、千葉県勝浦市奥隅川水系支流／監正正宏（望月賢二・石鍋壽寛・間瀬浩子）		写真は別ページに載っている場合や、載っていない場合もある	

←分布地図
（保護上の観点から表示しない場合もある）

メダカ

記載の一例（動物編2011年改訂版）

↓和名と科名

B

キシノウエトタテグモ

トタテグモ科

環境省のランク→

国：準絶滅危惧種（NT）

Latouchia typica (Kishida,1913)

←学名

千葉県のランク→

千：BーBーB

2000-2006-2011の順

【種の特性】 体長は雌 10-15 mm、雄 9-12 mmである。神社やお寺の境内、人家の踏み石のわき、崖地などに見られる。住居の入り口は片開きの扉をつける。地中性のクモは見つけにくい。このクモは梅雨時期にクモタケがでる。クモタケにより生息が発見されることが多い。雄のクモは9月から10月にかけて交接のため住居をから出て徘徊することが知られている。人家の室内で雄が徘徊しているのを目撃した報告例もある。

【分布】 本州・四国・九州に分布している。都市部に多く、山地では少ない。

【県内の状況】 内浦山で1987年、柏市で1989年、佐倉市で1990年。市川市で1992年、千葉市で1994年の記録(浅間、1999)がある。比較的にまよって分布しているのは、佐倉市の宮小路町の武家屋敷周辺である。内浦山は県民の森の崖地、柏市は県立東葛飾高校の敷地内、千葉市では柏井の谷津田近くの農家脇と泉自然公園である。いずれも土地が攪乱されていない場所である。清澄寺(畑守・新海・上田、1997)・君津市(新海・金野・上田、2002)・野田市(八幡、2002)・流山市(東葛飾土木事務所、2003)・船橋市(中西、2007)・白井市(加藤・中條・植松、2009)・松戸市(馬場、2010)・我孫子市(浅間、2010室内採集)などにも分布しており、県内に比較的広範囲にわたって分布しているものと思われるが、外房からの発見例はない。船橋市の東邦大習志野キャンパスでは、生息個体数が多く調査研究が進められた。県内のクモタケの確認場所は、松戸市の千葉大園芸学部・天津小湊町の誕生寺・佐倉市の佐倉城址公園・流山市のボーイの森・市川市の国府台などである(新海、2010)。

【保護対策】 生息が確認された地域の生息環境を保全することが望ましい。

【引用文献】 浅間(1999)／馬場(2010)／畑守・新海・上田(1997)／加藤・中條・植松(2009)／中西(2007)／新海(2010)／新海・金野・上田(2002)／東葛飾土木事務所(2003)／八幡(2002)

【写真】 P.183

←分布地図

(保護上の観点から表示しない場合もある)

キシノウエトタテグモ



キシノウエトタテグモ

2010年11月

我孫子市/浅間 茂

この場合、写真は別ページに載っている

(浅間茂)

掲載種数(植物・菌類編2009年改訂版)

	シダ植物	種子植物	蘚苔類	藻類	地衣類	大型菌類	総計
X 消息不明絶滅	9	51	5	4	9		78
EW 野生絶滅		4		1			5
A 最重要保護	22	115	17	28	20	7	209
B 重要保護	19	175					194
C 要保護	40	190	22	1	13	2	268
D 一般保護	11	131	18	7	17	26	210
R H 保護参考雑種	13	11					24
計	101	666	62	41	59	35	964
県内既知種数	267	1731	403	487	249	695	3832
掲載種数/既知種数	37.83%	38.47%	15.38%	8.42%	23.69%	5.04%	25.16%

全植物の4種に1種が掲載されている！

11

掲載種数（動物編2011改訂版）

	哺乳類	鳥類	爬虫類	両生類	魚類	昆虫類	クモ類	甲殻類	多足類	貝類	総計
X 消息不明絶滅	3	19			2	30		1	3	20	78
A 最重要保護		42	2	4	3	91	3	12	12	79	248
B 重要保護	2	35	4	3	9	82	2	4	12	55	208
C 要保護	5	43	1	3	7	115	3	5	8	31	221
D 一般保護	7	22	5	1	7	78	2	13	1	11	147
計	17	161	12	11	28	396	10	35	36	196	902
県内既知種数	34	400	14	16		6625	410		100	2000	9599
掲載種数/既知種数	50.00%	40.25%	85.71%	68.75%		5.98%	2.44%		36.00%	9.80%	9.40%

哺乳類の半分、爬虫類の85%が掲載されている！

どの種が掲載種？（哺乳類）

発表当日は、黒枠の部分に、インターネット上から借用した画像を配しました

アカネズミ	カヤネズミ	アズマモグラ
アカネズミ	カヤネズミ D 一般保護	アズマモグラ
アナグマ	タヌキ	ヒミズ
C 要保護 アナグマ	タヌキ	D 一般保護 ヒミズ
イタチ	ニホンテン	ニホンアシカ
イタチ	D 一般保護 ニホンテン	X 絶滅 ニホンアシカ

どんな種が載っているか？（哺乳類）

哺乳類 X 消息不明・絶滅

ヤマコウモリ、カワウソ、ニホンアシカ

哺乳類 B 重要保護

モモジロコウモリ、アカギツネ

哺乳類 C 要保護

キクガシラコウモリ、コキクガシラコウモリ、ニホンザル、
ニホンリス、ニホンアナグマ

哺乳類 D 一般保護

ニホンジネズミ、ヒミズ、ユビナガコウモリ、カヤネズミ、
ヒメネズミ、ニホンテン、スナメリ

哺乳類 情報不足

ヒナコウモリ

17種/34種

どんな種が載っているか？（両生類・爬虫類）

両生類 A 最重要保護

トウキョウサンショウウオ、アカハライモリ、ツチガエル、ニホンアカガエル

両生類 B 重要保護

カジカガエル、タゴガエル、トウキョウダルマガエル

両生類 C 要保護

モリアオガエル、ヤマアカガエル、アズマヒキガエル

両生類 D 一般保護

シュレーゲルアオガエル

11種/16種

爬虫類 A 最重要保護

アカウミガメ、ニホンイシガメ

爬虫類 B 重要保護

ニホントカゲ、シロマダラ、ニホンマムシ、ジムグリ

爬虫類 C 要保護

シマヘビ

爬虫類 D 一般保護

ニホンヤモリ、アオダイショウ、ヤマカガシ、カナヘビ、ヒバカリ

爬虫類 情報不足

クサガメ、スッポン

12種/14種

こんな種まで載っている！（昆虫など）

昆虫類 X 消息不明・絶滅
ゲンゴロウ

昆虫類 C 要保護
クツワムシ、ガムシ

昆虫類 D 一般保護
タマムシ

クモ類 C 要保護
コガネグモ

クモ類 D 一般保護
オニグモ

十脚甲殻類 C 要保護
サワガニ

多足類 C 要保護
ゲジ

ゲンゴロウ

クツワムシ

タマムシ

ガムシ

コガネグモ

オニグモ

サワガニ

ゲジ

発表当日は、黒枠の部分に、インターネット上から借用した画像を配しました

本当に<絶滅危惧種>？

・本当にその種は存在するのか？

X **チョウシマジムカデ** ツチジムカデ科

Nesogeophilus tiosianus Takakuwa, 1934

【種の特徴】 体長20mm。体は黄色。歩脚対数53。すべての胸板には前縁腔を欠く。最終歩脚の基節腔孔は胸版に接する一つの腔所に集中している。生殖肢節側板に鋸孔を欠く。

【分布】 本州(銚子市:基準産地)。マリアナ。

【県内の状況】 1934年の高桑による記載以来再調査されておらず、現状は不明。

【保護対策】 基準産地の詳細な再調査を行う必要がある。

【引用文献】 高桑(1934) / Takakuwa(1934)

(篠原圭三郎/石井清)

国：掲載なし
干：X-X-X

チョウシマジムカデ

・「残存」なのか「移入」なのか？

なぜRDBに載ってしまうのか？

＝何故絶滅に向かってしまうのか

- ・開発や都市化による生息環境の破壊
- ・（違法）捕獲や盗掘による減少
- ・外来生物の影響（捕食・競争・遺伝子汚染など）
- ・温暖化による生息域の変化
- ・人間が関与しなくなったことによる生態系の変化

里地・里山の維持管理も重要

千葉県レッドデータブックの入手法

・ダウンロード版

千葉県生物多様性センターのウェブサイトから
<<http://www.bdcchiba.jp/endangered/index.html>>

RDB

植物・菌類編(2009年改訂版) 動物編(2011年改訂版)

RL

植物編(2004年改訂版) 動物編(2006年改訂版)

追録

第1号(2011年) 第2号(2012年)

・冊子体

千葉県文書館で販売
<<http://www.pref.chiba.lg.jp/seihou/gyouseishiryoku/hanbai.html>>

RDB

植物・菌類編(2009年改訂版) 2,450円 動物編(2011年改訂版) 1,530円

RL

植物編(2004年改訂版) 80円